

いっしょにわーい子育て日記 (下)

村田 修子

人のかかわりは、そのかかわり方が密であればあるだけ、その間のつながりは強くなるといわれる。聞くところによると、オキシトシンというものが働いてその濃さを増すということである。まさに母と子のつながりのそれである。

今回は、前回の主に生活にかかわった部分ではなく、成長をふまえて一人の子どもと他の人とのかかわり、物とのかかわり等を日記から拾い上げていくことにする。

昭和四十一年 八月五日 (明日、満五か月目になる)

お兄ちゃんのとった写真をご覧下さい。浮間での生活記録と

いいましようか。想い出をアルバムにして差上げます故、またお戻し下さい。

篤ちゃんは一日増しに可愛らしくなってきました。近所のお宅に用事があったって伺っても、五分程すると帰りましたが、自分の戻る家がかかってきました。そして抱いて下さる方もありますが、直ぐ私の手に戻ってきてしまいました。安心しきって私のふところに戻ります。大兄ちゃん小兄ちゃん共に二人で日を決めて抱いてくれるようです。「今日は僕の番だぞ」ときどきそんな声が私の耳に入ってきます。

○表情が豊かになり、顔を覚えてよく笑う。

○両手をよく使い、手を出すようになった。

○哺乳ビンが分かる

目標としては

○日課表になるべく従った生活をさせる様にする

○そろそろ夜中のミルクは離す時期にきているので、日中たっぷり上げるようにします。離乳の本格的な調合は九月からにします。また湯ざましはコップで飲ませていきます。少しこぼしますが、慣れさせるためです。入浴後は「待った」がききませんのでビンで上げています。

八月は母親も休みがとれるので、自分の家で過ごすので、見て頂くのの間に間があく。

八月十五日

ねむりかけて到着、目をさましてしまふ。部屋を見回す。しばらくじっとしていて不安そう。抱っこされて私にしっかりつかまっている。大兄ちゃんがあやしても、くるりと後ろを向いてしまふ。二度、三度あやす。ちょっと泣きそうになり、その度に私にしがみつく。私の顔を見ては泣かずと安心した様に抱かれている。そのうち段々分かってきたとみえ、大兄ちゃんに抱っこする。

九月頃は人見知りをするようになるでしょう。

八月二十四日

久しぶりだった昨日は殆ど抱っこしてしまいましたので、日記が簡単になってしまつて済みませんでした。

久しぶりに会つてみて、我が家一同大喜び。「抱っこ」と手を差しのべるとその方に手を出すようになったことが、お別れしている間の成長でした。二人の子どもにも一回ずつ抱かせて上げました。

また一人遊びの最中も、ねむっている間も私はそばに近寄らずに、けれど目を離さないことが大切だと考えますので、実行しています。

このこと等も、かつて倉橋先生に直接伺つたお孫さんについての話と共通点がある。

「へやの隅で孫が一人で静かに本を見ているとき、その姿は可愛いので、何してるの？」と声を掛けたくなる。でも子どもが自分の世界に浸っているときはそれをぐつと我慢して、少しでも長くその状態を続けさせなければならぬ」と。

石川さんは倉橋先生のことはご存知ない。誰に教えられたものでもない。けれどもいまの状態ではどうするところが一番良いことなのかを判断する良い常識を身につけていらっしやると思う。全くその処置が当を得ていることに感心するばかりである。

九月二日

昨日から学校が始まり、第二段階に入ったという感じです。

これからの日々は、落ち着いて送れると思います。

散髪に行ったが人見知りをして泣く。家の中を見回す。誰の顔を見ても泣き、中に入りたがらない。途中で中止する程人見知りをするようになりました。

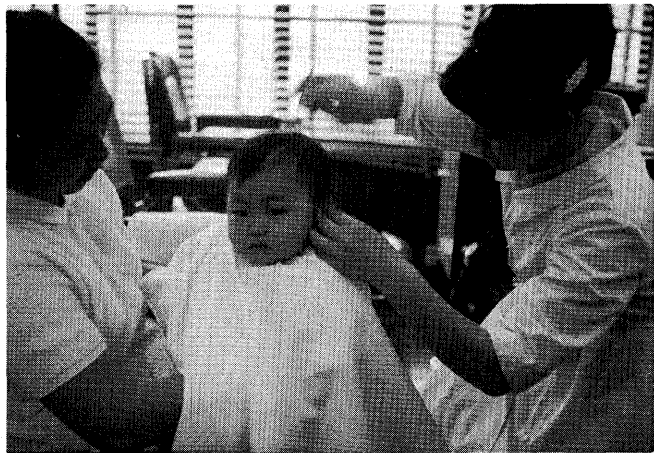
私の家に来て泣かずに機嫌よく一日居ることはすつかり分かってきたのだ、ということがしみじみ分かりました。

前に石川さんが九月頃に人見知りをするようになるでしょう、とおっしゃっていた判断が適中している。

九月十二日

小さいお友だちが遊びにくる。折角「赤ちゃん」と言ってく

▼ 床屋さんできれいに散髪



るので遊ばせるが目が離せない。篤ちゃんを抱いたきりである。当の篤ちゃんは友だちの来訪に大声を上げて喜ぶ。

うれしいとき、話したいとき、相手を呼ぶとき、本当に大きな声を出す。

おうちでは如何ですか？

九月二十二日（昨夜の雨あがる）

今日は中学の運動会に行く。篤ちゃん背中であぐらをかいて。九時半頃目を覚ます。陽もささず運動には丁度よい。篤ちゃんはびっくりしながらも、とてもおとなしく、珍らしそうにかけっこ、幅とびなど見てくれる。

九時四十分頃もそもそ動き始める。家に帰る支度をする。残念ながらお兄ちゃんの競技は見られない。まあ来年は篤ちゃんが若しいてくれたなら、今よりもっと喜ぶであろうし、ゆっくり行かれるでしょう。

親にとっては我が子の晴れの姿というものは何としても見たい、と思うのが親心。預かった小さい子のために、見たいという気持ちをおさえるというのは大変なことである。それをあえてやってのけ、しかも「来年篤ちゃんが今年と同じようにいてくれたら」とか「今よりもっと喜ぶでしょう」と今の状態の続くことを期待して

楽しみにするというのは普通では考えられないことに属する。

九月二十七日

午後予防注射に行く。おとなしくしていたがブスッとされて大泣き。私の子どもを連れて行った頃は大混みで、ワーワーと泣く声でのぼせ上がったものですが、最近はずいぶんおとなしく、楽にすみました。

注射から帰ってからずっとぐずり続けました。目がくっつきながら神経がたっている様子でした。熱の出る子どももいることですから少々ぐずりは仕方ないと思います。夜中にぐずりましたら、このためかも知れません（夜八時記）

十月四日

日毎に陽足が短くなり、パパ、ママのお迎えも暗くなってしまふ頃になります。昨日は暗い中で抱っこされたので篤ちゃんも警戒して、行くのをいやがったのでしよう。赤ちゃんの本能として三度のミルクを与える人を一番先に覚えます。両親も乳母もまだ本当には分からないときですか

ら、これからも間違えて、帰るのを嫌がったり、飛びついたりを繰り返すことだろうと思います。私としても篤ちゃんに嫌われるような乳母だったら、預けなざる御両親はどんなに不安に思われるか知れません。これはほんのひとつきの現象ですからどうぞ淋しがらないで下さい。

もう少し分かるようになったら、日中パパやママに電話してみたり、つとめてパパやママのお話しをするように私も心掛けるつもりでおります。

辛いなことにうちの子ども達も篤ちゃんに意地悪をするようなこともないので、私もその点はとても嬉しく感じています。家中が円満に篤ちゃんを中心に遊んだり、用事をしたりの生活ですから、私も大変張りのある毎日を過ごしていきます。

篤ちゃんは一人遊びもよくします。鏡台の前に歩行器に入れて置きますと、自分の顔を眺めて笑ったり、後ろを通る私を見て、ニコッと笑ったり、用事があると最近はおーおーと呼びます。どんどん変化することでしょう。

ここでも若い母親、子に接する時間の少ない母親のことを心配して、読み返してみると涙がにじんでできてしま

いそうなほど、こまごましい心遣いをして下さることに心を打たれる。とかく身内の者でも、「この子は親より私の方がいいんです」といったりすることは耳にすることがあるが、石川さんはそれを母親の立場の者はどういふように感じるかということ推察し、親の心が平靜でいられることの大切さを考えて、それをはっきりと教えてくれている。たいしたものだと思う。子どもを扱う人々がこれと同じような心くばりをして下されば、様々な問題が少しはへるのではないかという気さえする。ここでやっと二冊目を終わる

十月二十日

「お茶ブーのむ？」と言うと、最近はこのばが分かって嬉しそうにはしがる。

十時の食事時間に丁度NHKの「おかあさんといっしょ」のテレビがあり、毎日これを見ながら食事をしています。じいっと見ていて笑うところなどをみると、少しは分かるようです。けれど最初の十五分位すると、段々よそみとあく

びで口を開かなくなりそうです、途中から見ます。

十月二十五日 秋晴れ。

篤ちゃんがくる前にすっかりお洗濯をしてしまふ。

七時五十五分到着。ママと私を見比べて、ママに笑顔を見せて、次に私に手を出してくる。全くおりこうさんな篤ちゃん。

部屋に入ると今度は主人を探し、姿が見えないと体をねじって見回し、みつけると目を細くして笑う。

お兄ちゃん達にはこおどりして喜び、最近はお兄ちゃん達をかまう素振りをする。次第に一人、一人へっていく。今度私は私に甘える。篤ちゃんの日課も赤ちゃんなりになかなか忙しい。

十月二十六日

この頃、育児ノイローゼの母親の話題が世の中に多かった様子。離乳食がうまくいかなかったり、発育が母親の満足するようにならないことが社会問題としてとり上げられたらしく、離乳食についての記事があり、矢張

り大変工夫していることが分かる。

離乳食といえは普通べとべとと形が無いように煮るのですが、篤ちゃんの場合は違います。やわらかく、そして形のある方が好んで食べてくれます。消化の具合をみながら進めてゆくというやり方。トマトなども嫌うものですが、薄いジュースから始めて、その匂いに慣れさせると好きになってゆきます。レバーも同様でした。白す干しものどにかえることがないように細かにきざんで食べさせ、これでカルシウムの補いが大分できるわけです。

お茶が大そう好きですからのだが乾くとほしがり、泣いて訴えます。何でも泣き声と体のぐずりで要求しているわけですね。お兄ちゃんるときは何が何だか分からずで随分泣かせたり、大事をとりすぎたりで偏食にもしてしまいました。それが、それ等の経験で篤ちゃんには泣かせることもなく、また偏食のないように気を配っております。

また、主人にも注意されましたが、いろいろ芸を仕込んで太人のおもちゃにしてはいけないと……。ですから自分から何かするときは別として、強いてやらせたりは致しません。このことも注意している一つです。

十一月十四日

日曜日はどんなふうに暮している篤ちゃんのかなあ、何を食べているのかしら、三人で外出なさったかしら等々考えたりすることがあります。

うちにきているときは「仕事片づく」と私のそばで紙を破いたりおもちゃで遊んだり、本を眺めさせたり、はいはいしたり、抱っこしたり、歩行器で移動したり、様々にお遊びです。

鼻とのをやられているのでゼーゼーいう。でも小兄ちゃんが帰ってくると大喜びで、ケタケタと面白おかしそうに大きな声で笑い、私もつり込まれて笑ってしまう。この笑い声お聞かせしたいようです。

十二月九日

日毎に運動が活発になり、六畳と勉強部屋の境は十センチ位の段になっていますが、上手にはいいいで上り下りしてしまふようになりました。一人立ちも致します。危ないのはまだこれからでしょうが、一日中遊びの相手をしないと、一人遊びはとておかせません。



小兄ちゃんいわく、「僕この頃つまらない」「どうして?」「だって篤ちゃんが段々大きくなるんだもの」「体も大きくなる、小兄ちゃんにはだっこ出来ない位のこの頃。」「今にお兄ちゃん、って呼んでくれるのよ、じきにお口がきける様になるからね」と元気づけた。帽子をかぶせるとすぐとってしまい何回もかぶり直し「篤ちゃん駄目でしょ」と言う、それが面白くてケタケタと笑うなど、身近なこと

が遊びにつながっていて面白い。

昭和四十二年 一月二十四日

○ラジオをかけるとこわがります。急に雰囲気の違いや音がするからでしょうか。

○マーケットに行きましたら、お菓子屋さんのおもちゃをほしがって大きな声を出し、背中でもがきました。

○お人形さんには初め見向きもしませんでしたが、急に手にとって頬をつけて可愛がる様子をしました。もう一寸分かれるようになったら買って上げます。座ぶとんのそばには行って行き「ねんねんうー」といい、うつ伏せになってねた様子をします。

一月三十一日（お姉さんになった日）

二人目が生まれたので今日から一週間程お泊り。虫が知らせるとでもいうのか、朝パパから離れたがらなかつたとのこと。安心してお願い出来るので本当に両親も喜んだことと思うし、篤ちゃんも幸せだったと今更思う。

三月に入り中頃から母親は学校に行くようになるた

め、見てもらう方を探しているが、石川さんも「まだおねんねの時間が多いことでしょう。遠慮なさらずおつれ下さい。見て差上げますから」と言っていて下さっているということがある。

三月六日（満一歳）篤ちゃんのお誕生日

我が家でも今朝目がさめるとお兄ちゃんが「今日お誕生日やってね」。「誰の？」私はわざととぼけると「篤ちゃんのだよ」。私は本当にうれしくなりました。すっかり妹のつもりでいる息子達をかわいいと思えました。二人共学校から帰ると忘れずに「篤ちゃんおめでとう。今日からヒトチュだよ」と一生懸命教えていました。

元気で辛に育ちますように、とつくづく篤ちゃんの寝顔を眺めました。

最近は大分甘味を覚えてきました。食卓が少なくなるのであるべく甘い物はさけるようにしています。食卓の上のものでも香の物、ホーレン草、角砂糖など、今迄口にしない物が分かってほしがります。

三月八日

おひなさまを見て「きれい」と言うことが出来るようになり
ました。きれいなね、と言ってみて下さい。「きええ」と言
います。また、私の家に居ても妹のことを「さっちゃん」と
言います。お家で「さっちゃん、さっちゃん」と呼んで遊
んでいるのではないかしら、とみんなで話しました。

環境でそうなると思うが、満一歳になったばかりな
のに、妹とのかかわりが見えてきたことに驚いてしま
う。

四月一日

篤ちゃんの遊び道具でつみ木がありましたら貸して下さい。
我が家では、みかんをつんだり、クリームの入れ物をつん
だりしています。（その方が知恵の働きのためにはよいか
も知れませんが……。）
見ていますと、重さと、大きさを考え考えやっている様です
が、何分にも赤ちゃんですのでそれでは一寸不便する場合
もありますので、よろしくお願い致します。

四月二十八日

乗りものが好きです。朝は主人の自転車で道を二周します
が、降りると口をとがらせ、涙をぼろぼろこぼして泣きま
す。夜はお兄ちゃんたちのお馬にのって畳の上をぐるぐる
回って貰っています。その他まり投げ、はいはいのかけっ
こ、抱っこして字を書いたり本を読んだりで、正直なところ
赤ちゃんのおもちゃでは余り遊びません。つみ木も高く
積んで倒れるときやっつきやっつき喜びます。

然し感情は大変細やかです。ですからふだんの顔や姿、動作
にはとても気を使います。これから段々性格がはっきりし
てきます。一日一日の過ごし方がおろそかに出来ない気持
ちです。お兄ちゃん二人がとても可愛がってくれているの
でうれしいです。

夜になるとお父さんの車の音を待っています。

篤ちゃんは順調に発育し、ことばも遊びもその年齢な
りのことをしていることが丹念に書かれています。それ
うかがえた。本当にお骨折りのことはかりである。それ
が九月に入り、妹の祥ちゃんも朝一緒に来るようにな

り、そこから近所の方の家に行き、昼間も、入浴させるような時間には石川さんの処へ来て一緒にお世話を受けている。そして篤ちゃんと同じように詳細に書かれている。

この頃朝は余りたべたがらず、そのかわりに少々すねるのを覚えました。私が祥ちゃんを家の中で抱くとその現象がおこる様なので、祥ちゃんはお兄ちゃんが抱き、私が篤ちゃんを抱きますと目を細くして満足する。どうやら独占欲のようです。

こういう心持ちの変化も、大変順調に発達しているようである。

大人の要求に対して「ヤダヨーダ」と反ばつしたり、いつの間にかお兄ちゃんの真似をして片言で歌ったり、上衣を持って行って「お兄ちゃん、寒いからぬい、で」と分かったようにあどけなく世話をやいたりもするようになった。

一月になると、

○だから・まったく・さっぱり・あのね・またね・

ばかり等々を使いながらとてもお話しすることが好き。

○おしゃまさんになって人形におむつをしたり、一日中鏡に向かって座っている。

○兄弟がけんかしていると「やめなさい、やめなさい、もう！」と仲裁をする。

○両親の名前も覚えて言える。

○夕日の沈むのや、影ぼうしを見て夕日の歌や結んで聞いても歌う。と各面での発達の状況を見て下さっている。

毎日二人はおやつと一緒に過ごす、二人が逢うととても喜ぶ、ということである。姉妹のためには近くで過ごせてとてもよかったと両親も感激していた。

二人になってからも、それぞれの子どもについて、やったことや注意が書かれている。

八冊目に「……。マーケットに行くとき好きなものをほしがるようになっていますので、躰にばかりとらわれずに、気持ちを満たすことも考えなければなりません

ので、このへんのところからこれからむずかしい問題だと思っ
ています」とある。その時期なりに対処しなければなら
ない扱い方をもちやんと考えて下さっているのが、本
当によく分かっていらっしやるのだと改めて感心して
しまう。

二歳の誕生日を迎えたあと、気持ちの方もことばの面
も達者になり、おもらしをしても「おこらないでね」と
か「よくできたわね」と石川さんのまねをして、早々と
予防線を張って文句の言えないようにしてしまうし、食
事するときなども「…だけどね、ぼく食い気がないの」と
テレビマンガの言葉を使うし、新聞を見ているご主人に
「パパあたしの顔見ないで」と言うので、びっくりして
「エー？」と顔を上げると「そんなに見ないで」大人は
顔見合わせて大笑いさせられてしまったりの楽しさであ
る。

いつのときか石川さんも書いておられたが「子どもが
いればこそ笑い声かたえず響き……」とあったが、私も
本当にそう思う。また、子どもに教えられることもたく

さんにある。重ねて子どもはめんどうなもの、とばかり
思わないで、石川さんのようにゆったりと子育てを楽し
んでほしいと思っただけの日記紹介である。

その後、石川さんには篤ちゃんが小学生になるまでお
世話を願ひ、その後も趣味のスキーや海へ一緒に行くな
ど、大学生になるまで両家のゆききはずっと続いた。

今は郷里に住まうようになった石川さんご夫妻にとっ
て、赤ちゃんのときの姿とだぶらせて見たであろう篤
ちゃんの花嫁姿は、ひとしおの感慨だったことと思われ
る。

(洗足学園短期大学)